

第二章 豚の品種

ピッグショーへ参加しようとする若い皆さんは、豚を選ぶときには好みの品種を選ばいいと思います。とはいえ、チャンピオンになる豚は出荷した時に最もたくさん肉が取れて無駄になる部分も少ない、歩留まりの良い品種であることが多いです。皆さんが計画を進める前に、4-H クラブや FFA のメンバー、両親と相談して豚の品種に関して少し情報を集める必要があるでしょう。ショーの経験者に一番人気のある品種についても聞いておきましょう。枝肉品評会の結果も参考にしましょう。また、その豚の母豚がかつてショーで賞を取った子豚を産んだかどうかチェックしましょう。

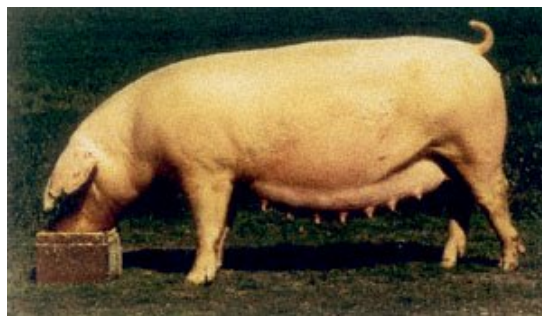
オクラホマ州立大や全米種豚登録協会のウェブサイト (<http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/>、<http://www.nationalswine.com>) でポピュラーな豚の情報が入手できます。また、これらのページから様々な品種協会のホームページも探す事ができます。

枝肉品評会は屠場で処理した豚の枝肉を評価する品評会です。ロース芯や背脂肪、腿肉などを採点してチャンピオンを決定します。

訳注

4-H クラブ、FFA はどちらも米国の農業青少年団体です。4-H クラブは 9～19 歳の非農家の青少年で構成されます。入会には審査が必要で、さまざまな農業プロジェクトに携わる農業クラブです。FFA は Future Farmer America の略で、公立学校で組織されます。こちらは 15～19 歳の青少年が対象です。

アメリカン ランドレース (American Landrace)



Provided by National Swine Registry
(Courtesy of the Oklahoma State University website,
<http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/>.)

この豚は有名なデンマーク産のダニッシュ ランドレース (Danish Landrace) から作られました。アメリカン ランドレースは 16~17 対の肋骨を持つ胴長の白い豚です。他の品種と比べると背中のアーチがはっきりしておらず、中にはほとんど平らなものもあります。頭が長くてやや細く、下顎がすっきりとしています。耳が大きくて重く、顔にかぶさっています。見た目では足やわき腹にも肉が付いているのが特徴です。お尻がやや長く、腿は太っていませんが形は整っています。枝肉は長くて深みがあり、お腹のラインが滑らかです。母豚は多産で乳房が発達し、泌乳能力も高いです。

アメリカン ランドレースは改良のために原型となったヨーロッパのランドレースにポーランド チャイナの血液が 1/16 ~ 1/64 使われました。アメリカン ランドレースは白毛の豚で、黒点が入ると良くないとされています。斑紋が入るのは許されていますが、黒い毛が生えているものはアメリカン ランドレースとしては登録できません。

バークシャー (Berkshire)



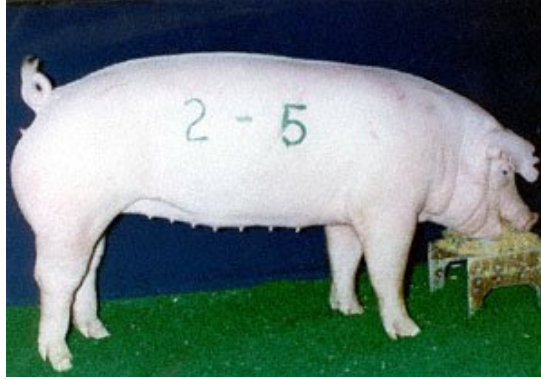
Provided by National Swine Registry

(Courtesy of the Oklahoma State University website,
[http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/.](http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/))

バークシャーの歴史は約 300 年にわたります。他の品種より大型で、香りの良い素晴らしい品質のハムとベーコンができます。

もともとのバークシャーの体色は赤~砂色、時には斑紋が入っているものもありました。バークシャーの枝肉の品質は素晴らしく、枝肉ショーや品評会の人気者でした。バークシャーを交配プログラムに組み込むと枝肉の品質は良くなりますが、産子数が少なくなると考えられています。

チェスターホワイト (Chester White)



Provided by National Swine Registry

(Courtesy of the Oklahoma State University website,
[http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/.](http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/))

チェスターホワイトはペンシルバニア州のチェスター郡で作られました。もともとはチェスター カウンティー ホワイトと呼ばれていました。チェスターホワイトの特徴は体が丈夫で枝肉の品質が良い事です。

この豚はイギリス原産のヨークシャーとリンカンシャーを元に改良されたもので、後に西部に輸出されて有名になりました。オハイオ州の O.I.C.は厳密には新しい品種ではないのですが、“オハイオの改良チェスター”の頭文字を取ったものです。

デュロック (Duroc)



Provided by National Swine Registry

(Courtesy of the Oklahoma State University website,
[http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/.](http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/))

この豚はニューヨーク州のレッドデュロックとニュージャージーレッドから作られた品種で、かつてはデュロックジャージーと呼ばれていました。

デュロックという名前の由来には、1823年にアイザック フリンクという人がイギリス原産の純血の雄豚を買った時、その売主だったハリー ケルシー氏がデュロックという、当時有名だった競走馬を所有していた事からそう呼ばれるようになったといわれています。この雄豚の子孫は赤い毛色で成長が早く、深みのある体型と腿と肩の広さ、おとなしい性格をよく継承し、デュロックという名前が定着しました。

僅かにしゃくれた短い顔で、耳はいつもたれています。デュロックは肉質が良いことでも定評があり、この雄豚は白ブタの母豚とかけ合せて肉豚を作るプログラムの止め雄として素晴らしい役割を果たします。

ハンブシャー (Hampshire)



Provided by National Swine Registry

(Courtesy of the Oklahoma State University website,
[http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/.](http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/))

ハンブシャーは現存するアメリカ原産の豚としては最も古いものの一つです。体の大きさが評価されていて、白いベルト模様を持つ黒ブタとして知られています。ハンブシャーは今では他の同系の白ブタと比べると産子数が多いとはいえませんが、子育てのうまさは群を抜いています。

この豚はもともとケンタッキー州に持ち込まれたシン リンド (Thin Rind) という品種を改良したもので、頑丈で活力にあふれ、産子数が多く、草を食べるという特徴があり、ケンタッキー州ではとても人気の豚となりました。オハイオ州の食肉業者がわざわざケンタッキー州までこの白帯の豚を高値で買いに来たそうです。有名なスミスフィールドハム社は、創設当時はハンブシャーだけを使っていました。

ヘレフォード (Hereford)



Provided by National Swine Registry

(Courtesy of the Oklahoma State University website,
[http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/.](http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/))

この豚はアイオワ州とネブラスカ州の改良同好グループによって作られました。このグループのメンバーはもともと自分たちが持っている家畜を改良し、体型や毛色の均一性、成長の速さ、その他いい特徴を持たせるために活動していました。デュロックとポーランドチャイナをベースにして堅実な同系・異系交配を組み立て、優秀な個体の選別を繰り返して誕生したのがヘレフォードです。

ラージホワイト (Large White)



Provided by National Swine Registry

(Courtesy of the Oklahoma State University website,
[http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/.](http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/))

ラージホワイトは世界の養豚業界で主流を成している品種で、アメリカやカナダでヨークシャーと呼ばれている品種はこのラージホワイトの直系の子孫にあたります。産子数の多さ、ピンと立った耳と僅かにしゃくれた顔、白い毛色

とピンクの皮膚、長くて深みのある胴体が特徴で、名前が示すとおり大型の豚です。脂肪をあまり付けずに成長するので通常の肉豚サイズのものだけでなく、大きく育ったものでも肉として好まれ、ベーコンを作るのに向いています。

野外で飼育する品種として改良された豚ですが、様々な気候や環境に耐える頑丈さを備えていて、閉鎖された豚舎内の飼育でも問題ありません。産子数が多くて乳量も多く、素晴らしい母性本能を発揮します。筋肉質で活発、肢が丈夫です。

ラージホワイトは世界中でハイブリット豚の育種や他の品種の改良に大きく貢献し、ほぼ全ての豚の生産に何らかの形で貢献しているといえます。

ピエトレン (Pietrain)



Provided by National Swine Registry

(Courtesy of the Oklahoma State University website,
[http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/.](http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/))

この名前はベルギーのピエトレン地方でこの豚が誕生した事に由来します。中型の豚で白地に黒の斑紋が入ります。皮膚の色はあまりはっきりしておらず、黒い斑紋の周囲が淡い色で縁取られ、白い毛が生えています（馬でよく見られる駢毛〔バクゲ〕です）。耳は立っています。

この豚は短足でずんぐりしていて背中が広く、腿は筋肉質で特に発達しており、赤肉率の非常に高い品種です。ピエトレンは他の品種の豚と比べて歩留まりが高く、高品質な赤肉を生産することで好まれています。この豚は肉質を高めるための肉豚生産の止め雄として、特にランドレースの母豚と組み合わせて使われます。ピエトレンの母豚は多産ですが母性と乳量に欠けるようです。

ピエトレンがアメリカの交配プログラムであまり使われなくなってきた最大の原因は、この豚が遺伝的に PSS（豚ストレス症候群）を持っているからだと考えられます（第 8 章参照）。

ポーランドチャイナ（Poland China）



Provided by National Swine Registry

(Courtesy of the Oklahoma State University website,
[http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/.](http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/))

ポーランドチャイナは黒地に四肢と鼻、尾っぽの 6ヶ所に白いポイントがあるのが伝統的な特徴です。この豚は他の品種と比べて体重で引けを取る事はありません。素晴らしい大食家であり、適切な管理下でよく成長して体質も頑丈です。骨が固くてしっかりとした四肢を持つ事でも知られています。性格は気性の激しい白ブタと違ってとてもおとなしいです。枝肉の素晴らしさに対して、産子数が少ないといわれた時代もありましたが、今ではそんな事はありません。

私が少年だったころ、“超大型”のポーランドチャイナに夢中になっている人がいました。私は父と一緒にポーランドチャイナの母豚を何頭も飼ったことがあり、16、7頭も一度にお産することがたびたびありました。しかしながら、母豚の体が大きすぎるし、お腹が平らで子育てがあまり上手ではなく、分娩後の数日以内にたくさんの子豚を圧死させてしまいました。その後の改良でこの欠点が克服されたようです。

スポッツ〔スポットテッド ポーランドチャイナ〕(Spots)



Provided by National Swine Registry

(Courtesy of the Oklahoma State University website,
[http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/.](http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/))

この斑紋を持つ豚の系統はオハイオ州で”ウォーレンカントリーホッグ”と呼ばれたポーランドチャイナの原種となる 6 品種の豚までさかのぼります。これら 6 品種のうちの一つが”ビッグチャイナ”と呼ばれたもので、白地に黒の斑点が特徴でした。この豚は餌をよく食べて成熟が早く、とても産子数が多く、インディアナ州のブリーダーたちはこの形質を自前の豚に導入するために何年間も交配に使い続けました。さらに、英国産の有名な雄豚のグロスターオールドスポッツがこの系統に素晴らしい活力をあたえ、飼料効率や成長率、枝肉の品質が改善され、全国の試験場でその能力が評価されました。スポッツは成長の速さや飼料効率、肉の品質の良さを強く遺伝させるので一般の農家や農場で人気がありました。

ヨークシャー (Yorkshire)

ヨークシャーは 1920 年代までは小さくて成長も遅い小型の白ブタとして扱われていて、頭数も減少傾向にありました。実際にはヨークシャーは大きいものと中～小型の 2 つのタイプがあり、大型のものだけがアメリカで飼われるようになり、さらにイギリスのラージホワイトを交配して肉質や能力が改良され、ヨークシャーは人気の品種となりました。

現在のヨークシャーの母豚は体格が大きくて胴も長く、産子数も多くなってかつてのものより高い生産性が追及され、多くのハイブリッドの血統でヨークシャーは使われています。

タムワース (Tamworth)



Provided by Michael von Luttwitz

(Courtesy of the Oklahoma State University website,
[http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/.](http://www.ansi.okstate.edu/breeds/swine/))

タムワースはイギリス原産のベーコンタイプの品種です。ベーコンタイプとはベーコンをたくさん作るために改良された豚を表す用語で、ベーコン以外に使われる部分の肉がいくらか少なめになっています。

タムワースはとても胴の大きな豚で、お腹の深みも揃っています。背中のアーチが強く出ますが、ずんぐりした品種ほどの幅はありません。筋肉質で臀部が発達しています。他のベーコンタイプの品種でありがちな、腿肉が小さいとかばらつくなどの問題はなく、筋肉質で締まっています。

タムワースは他の品種を知っている人に言わせると、首や足が長くて胴の幅も狭いので魅力が少ないといわれます。しかしこの品種のおとなしきや見た目の美しさ、すっきりとした顎、お腹のラインや肉付きはなかなかです。頭と鼻はまっすぐに長く伸びています。耳の大きさは中くらいで必ずピンと立っていて、前に傾いたり垂れているような耳は喜ばれません。体色は普通金～暗赤色です。大きな黒いスポットが入ったものやクセ毛のものは好ましくなく、巻き毛のものは登録の対象外にされます。

アメリスキャン (Ameriscan)

アメリスキャンは PIC やニューシャム、ジェネティポークなどの種豚会社が販売しているたくさんのハイブリッド豚の一例です。このハイブリッドはスウェディッシュランドレースとデュロックを原種とし、優れた能力を発揮します。この系統造成の終盤ではスウェディッシュラージホワイトとハンプシャーの異系交配も行われています。これらのハイブリッドは全て素晴らしい枝肉重量と成長速度、飼料効率、そして丈夫な肢蹄を備えていて、高い生産性を追及する

アメリカの大農場から広まりました。

豚の導入元

ショーピッグを購入するためのキーポイントは、まずあなたの志をよく理解してくれる養豚家と仲良くなる事です。その人の管理や評判を良く知りましょう。その人はショーで賞を獲得したことがありますか？また、ショーを目指す人をきっちりとサポートした事がありますか？他のショーマンたちはその人のこと良く言っていますか？まず信用できる人物かチェックしましょう。

注意事項として、養豚業界ではバイオセキュリティー（農場防疫）が重要視されています。養豚場の中では防疫（伝染病予防）プログラムを実施していて、部外者の訪問を固く禁止しているところがたくさんあります。そうでない所でも、条件付で許可している農場も多いです。農場を訪問する前には管理者に確認しましょう（第四章参照）。

ショーピッグの同好会が行なっているオークションに参加するという手もありますが、やはり防疫のルールは守らなければなりません。オークションにショーピッグを上場したり、トラックで運んでいる人について何か知りませんか？オークションで豚を買う時は熱くなりやすく、予算以上の金額で豚を買ってしまうことが多いので注意しましょう。オークションに出ている豚は見栄えが特に良くなるようにその数日前から特別な手入れがされている事を心得ておきましょう。家に着いた時にはそれほどでなくなっている場合があります。

バイオセキュリティーについても注意しましょう。オークションに複数の人たちが出品している時、あなたが買った豚はその会場で病気に感染し、家に連れて帰ったすぐ後で病気になって大きな問題を起こす事があります。

ショーピッグを飼っている人が、わずかなお金のために豚を手放す理由は様々です。最も大事な事は、一番いい豚を見抜くセンスを身につけることです。

最後になりますが、多くの FFA プログラムやブリーディング協会などが、かつてはショーピッグのチェーンオーナーシップという制度を設けていました。学生たちが豚をテーマにした懸賞作文を投稿し、選ばれるとブリーダーから買い上げられた若雌豚が与えられます。ここで豚をもらえる条件はピッグショーにこの雌を出品する事と、この雌豚から産まれた子豚のうち 2 頭の雌子豚を次の飼主候補に提供するという事です。手元に残った子豚は自分で育て、売ってお金を儲けてもかまいません。次の年には新しい学生がこの雌子豚を与えられ、オーナーシップが続いていくわけです。

昔は若い人たちがピッグショー用の豚を手に入れる方法としてこの制度がとてもさかんでした。しかし、最近ではショーに出品される豚のレベルが高くなりすぎてしまった事や、伝染病の問題のために廃止されるようになりました。